

# 光 香(みつこう)

登録番号：第3050号

育成者：佐藤一男

登録年月日：平成4年2月29日

来歴：在来種の実生の中から選抜・

登録取消：平成11年3月1日

育成

登録者：佐藤一男（山形県西村山郡  
西川町大字入間297）

育成地：山形県西村山郡西川町大字入  
間

## 特 性

### ■栽培特性

雌雄同株で同一樹に雌花と雄花を着生する。樹勢は中。新梢の太さは中で長さは短い。成葉の大きさは小で先端が鋭く尖る。葉柄の長さは中である。

花穂の着生数はかなり多い。開花期は育成地で6月中旬頃となる。花の大きさは小さく、花弁の色は乳白色。多弁花が多く、1花そうに3花程度の花を着ける。

### ■果実特性

果実の大きさは12～13gで、在来種の蛇喰（ジャバミ）種に比較してかなり大きい。

果形は長台形で扁平率が大きく、果皮の色は緑色である。果梗は短い。果肉は甘味が強く（糖度17度程度）、酸味中でさるなし特有の香りがある。

育成地（山形県西川町）における成熟期は9月下旬で同地方の在来種（蛇喰種）よりも早く、追熟も容易である。完熟した果実は独特の芳香と甘味があり食味良好である。滋養強壮に良いとして珍重されるが、最近では完熟前に収穫し、ワインや果実酒等の加工用としての需要が伸びている。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

若木時代の樹勢は強く、生育が旺盛なことから樹冠の拡大は容易であるが、むやみに拡大するとその後の生育が悪くなるので注意が肝要である。

果実は前年枝（結果母枝）から新たに発出した新梢に着生する。このため、休眠期の剪定では充実した母枝を選んで適度な切り返しを行うとともに、弱小枝や徒長的な枝の間引き剪定を励行する必要がある、これが高品質果実の安定生産につながる。

病害としては葉のうどんこ病と果実のすす点・すす斑病の被害が問題になる。特に枝が混んでくると被害が多くなるので、樹相に応じた結果母枝の配置に心がけることが必要である。

### ■地域適応性

山間地を含めほとんどの地域で栽培が可能であるが、耕土が浅く、排水の悪い場所では生育が悪く収量も期待できないので、このような土地では植栽をさける。

（奥山仁六）